

平成23年度 元気な地域づくり 活動報告会

平成24年1月25日（水）13:30～16:00

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

◎事例発表

地 区：栄区 公田町団地地区

テーマ：「お互いさまねっと公田町団地」の活動について

発表者：^{ありとも}有友 フユミさん（特定非営利法人 お互いさまねっと公田町団地 専務理事）
^{さとう やすし}佐藤 保司さん（特定非営利法人 お互いさまねっと公田町団地 専務理事）

○有友 私はお互いさまねっと公田町団地の理事をしております有友です。よろしくお願いたします。では、取組についてお話ししたいと思います。

公田町団地は、JRの大船駅から、バスで10分から15分ぐらいのところの小高い丘の上にあるというイメージで聴いていただければ有り難いと思います。私たちの団地ができましたのが昭和39年。もう48年目に入っております。その中で私たちは住んでいまして、平成19年5月に団地周辺にお店が何もなくなったところから、この活動が始まったのではないかと考えております。

ちょうどその時期に孤立死・孤独死という問題が目立ち始め、行政から私たちに、色々な地域の住民でどういったことができるかということでお話をいただきました。昼や夜に集まれる方は皆さんいらしていただければということで、タウンミーティングを5回ほど設けました。その中で、私たちがやらなくてはいけない課題が見えてきました。初めに、あおぞら市を考えました。勾配も強い急な坂道ですので、お年寄りの方が買物に困っているところから話し合いまして、「では、あおぞら市をやろう」という、本当に単純な思いから始まりました。

同時期に行政委託のモデル事業として、社会福祉士による相談事業を火曜日と土曜日の10時から4時の時間帯で始まりました。

私たち公田町団地には「火曜会」というシニアの集いがあります、同じ日にあおぞら市開催を決め、相談事業もそこで一緒にやれるような形になりました。

私たちが活動を行っていくうちに、やはり活動の拠点が必要となり、そのために、自治会は法人化してないので、「私たち活動しているメンバーでNPO法人を立ち上げよう」という話になり、平成21年9月11日に神奈川県に認証されました。14日に登記をすませ認定を受けましたので、本当に有り難いと思っております。

私たちは何も無いところからでしたが、「横浜市一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事

業」に採用していただき、拠点づくりにはとても有り難いお話でした。資金もない中で、こういった多目的活動拠点を確保できたことは、本当に感謝しております。

私たちはこの活動拠点を「いこい」、上から読んで下から読んで「いこい」という名前をつけました。みんなでネーミングを考えまして、私たちの活動の目的で一番重点を置いているのは、お互いさまの心を拠り所にした孤立予防、生活支援です。活動の原点はあおぞら市を通しての安否確認、見守支援です。お年寄りの方が買物に来てくださったときに、見守りに関する情報を教えてください。話を聞いた中で、私たちがこれは訪ねたほうがいいと思う場合は、そこに伺います。

「いこい」の中には「街の雑貨屋さん」として、お年寄りの方が持つには大変なお米や日曜品等の大きな雑貨を置いています。お米は猪苗代から取り寄せております。「いこい」は、日曜日と祭日だけ休んでおりますが他の日は全てスタッフが常駐していますので、全て品物を大体そろえて、皆さんに提供できるよう頑張っています。例えば、地域の障害のある子供たちが作ったクッキーなども置いております。手作りのスカーフや財布なども一緒に置いております。

またサロンには、お茶をしに皆さんいらしてくださいまして、1日に延べ60~70名が入りをしております。

脳トレの活動として、男性の方には是非来てほしいと思ったとき、みんなで話し合っ、マージャンをすれば少しいらしてくださいるのではということでしたら、本当にいらしてください、会員にもなってくださったりしております。

月曜日、水曜日、木曜日・金曜日、土曜日は、お昼に軽食をやっておりまして、火曜日だけはモーニングを6時半からやります。1回だけですが、けっこう来ていただいています。メニューはうどんが300円台、カレーは300円です。生活支援が目的ということで、それほど高い値段を取っておりません。ご自分で食事を作ることができない方々がいらっしゃってくださいますので、できるだけ私たちは生活支援ということでやっております。

それから、仲間づくりのためのイベントとして、四季折々実施しています。春は桜で、ヤマザクラなのでピンクではなく、梨の花のような白い桜です。それから七夕、秋はケヤキとモミジ、冬は本当に困ってしまいますが、ときどき雪が積もると団地の坂道は昇り降りが難しくなります。

また、子育て支援として、多目的フロアでイベントを月1回やっております。子育て支援者に来ていただいて、月1回交流をしております。

ヨガの教室は毎週水曜日10時から12時ぐらいまで行っています。これは本当に好評で、14、5人来てくれます。

介護予防体操は、「お互いさま接骨院」といって、若い接骨院の先生が火曜日と金曜日の午前中に来てくださいます。その先生方が色々と考えてくださいます、5回シリーズぐらいで介護予防体操をしてくださいます。

私たちはやはり自主財源を考える必要もあり、ビアガーデンを6月から9月までの間に第3土曜日5時から8時半ぐらいに必ず実施するようにしています。これが一つの交流、仲間づくりの交流の場所となっています。

また去年は3月11日に震災がありましたから、私たちも4月はイベントを自粛していま

したが、それではいけないということで、全国色々な場所（私は愛媛でしたが）に、北は北海道から南は九州までメンバーがいて、その一押し二押しの産物を集め、5月1日に「ふるさとフェア」として開催してみました。人もいっぱい来ていただきました。皆様がやはり、「いこい」のことを知ってくださることが大切なので、そういったイベントをやっております。

あとは季節のイベントとしてコイノボリを立てています。また、交響楽団のプロの方がいらっしゃいますが、その中の何名かでコンサートをしていただきます。

私たちは猪苗代との交流がありまして、「お互いさまねっと公田町団地」という田圃が3か所くらいあります。そこに行ってきました。

猪苗代からも、自治会と共催で12月に行う福祉バザーですが、そのときにいつも12、3人が、マイクロバスで来てくれます。1泊2日の参加と協力はお餅つきをしてくださったり、猪苗代の手打ちそばを作ってくださいたり、そういった交流を震災前からずっと続けて、年に2～3回来てくださっております。これは大事にしたいと思っております。

生活支援としまして、例えば買物であったり、病院の付き添いであったり、住民の方が困られたときにお話があれば、私たちのスタッフの中でお手伝いをできるようにすることを考えております。

私たちは「いこい」は、「駆け込み寺」と言ったらオーバーかもしれませんが、何か困ったときにそこに来ていただければ、私たちスタッフの中でできることはやります。

「お互いさまねっと安心センター」として見守り支援活動に取り組んでおります。お年寄りの方、賛助会員も含めて会員が200名弱ですけれども、その中で、おひとり暮らしで心配な方は登録をしてくださっており、何かがあればすぐ伺います。安心センターは支援員が8名いて、それから民生委員が4名おり、計12名で1から33号棟まで見守りをしています。

通常の見守りに関しては、みなさん平均すると約30年弱住んでおりますので、割と顔が知れています。火曜日を全部会議に当てており、何かあれば必ず会議の中で情報共有します。栄区の高齢支援課と、桂台地域ケアプラザと協定を結んでおり、第1火曜日の支援員の会議で私たちでは対応できないと判断した方については、そこに全てつないで対応をお願いする体制を取っております。異変に気づいたらすぐ連絡が入り、緊急連絡先等が記載された「安心登録カード」がありますので、ご家族の方へ電話連絡を、救急搬送が必要なときは必要に応じてスタッフ同行します。

私たちに活動の拠点「いこい」ができたことは本当に有り難いと思っています。常駐していますので、外の様子が見えて、少し心配な方のところなどは駆け付けて行って、大丈夫かどうか確認しています。みんなで助け合う場所になっています。今では、地域交流の場所として、とても活気づいていると思っております。「いこい」で実施している様々な取組を、皆さんも少しずつ分かっているのか、色々な情報を知らせてくださいますので、お互いに助け合う、居場所になっております。

介護保険等のサービスを受けていない、一人で困っている方々を、私たちがどう見守っていくかということをしっかり検討し、少しでも困っている方々を支援できるようにと思っております。今後の課題としては、栄区と桂台の地域ケアプラザ、あとURは

もちろんですが、そういった方々にご協力をいただいて、何とか自分たちの力でやり立てできるように頑張りたいと思っております。

また別の課題として、私たち二人も 65 歳です。そのメンバーと、他のメンバーも 7、80 歳でやっておりますので、本当に支援、担い手として新しいスタッフの育成が必要です。しかし、今を考えると、40 代、50 代の方はやはりご自分の生活が第一優先で、ボランティアにはならないと思いますので、私たちが考えるのは、リタイアした人たちを順番に、我々が 7、80 歳になれば、60 代の人に担っていただく、というような形で頑張ればいいのかと思っております。

財源の確保の難しさはありますが、本当にスタッフにも恵まれていまして、色々なことを考えてくれています。だから、何とか頑張れるのではないかとと思っております。

写真は開所したときのメンバーです。そのショッキングピンクのものを着ているのはみんなスタッフです。

以上、どうもありがとうございました。